

H30年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金
(慢性の痛み政策研究事業)
慢性の痛み診療・教育の基盤となるシステム構築に関する研究
分担研究報告書

難治性疼痛及び慢性疼痛に対する学際的治療の多面的評価に関する研究

研究分担者 門司 晃 佐賀大学医学部附属病院精神神経科 教授
研究協力者 平川奈緒美 佐賀大学医学部附属病院ペインクリニック・緩和ケア科 診療教授
園畑 素樹 佐賀大学医学部附属病院整形外科 准教授
江里口 誠 佐賀大学医学部附属病院神経内科 助教
國武 裕 佐賀大学医学部附属病院精神神経科 助教
松島 淳 佐賀大学医学部附属病院精神神経科 助教

研究要旨

本研究の目的は、慢性痛及び難治性疼痛に対する学際的アプローチの有効性と必要性を明らかにするために、その介入効果を多面的に評価することである。そのために、慢性の痛みを主訴に受診した外来患者に対して iPad を用いた問診を実施する計画としているが、問診システムの構築の途上であり、問診を実施できなかった。今後、早急に問診システムを構築し、研究を進めていく必要がある。

A．研究目的

慢性痛及び難治性疼痛の診療および研究においては、個々の疾患分野や医療職種に限定されない学際的なアプローチが求められている。佐賀大学医学部附属病院においては痛みセンターチームを組織し、痛みの緩和を専門とする麻酔科ペインクリニック医(2人)だけでなく整形外科医(1人) 神経内科医(1人) 精神神経科医(2人) さらには臨床心理士(1人) 理学療法士(1人)も含めた多職種で学際的カンファレンスを月に1回行い、通常の診療システムでは治らない慢性痛患者の治療方針を決定している。本研究では、慢性痛及び難治性疼痛に対する学際的アプローチの有効性と必要性を明らかにするために、その介入効果を多面的に定量化することを目的とする。

B．研究方法

本研究は、慢性的な痛みを主訴として当院の外来を受診した患者を対象とする(目標は20名)。また、その介入効果を痛みだけでなく心理・社会面も含め多面的に評価する(初診時、3か月、6か月、12か月)。具体的には、痛みの評価にはBPI(brief pain inventory)

痛みに伴う生活障害の評価にはPDAS(Pain Disability Assessment Scale)を用い、不安・抑うつの評価にはHADS(Hospital Anxiety and Depression Scale)、痛みの破局的思考の評価にはPCS(Pain Catastrophizing Scale)、痛みに対する自己効力感の評価にはPSEQ(Pain Self-Efficacy Questionnaire)、健康関連QOLの指標としてはEQ-5D(EuroQol 5 Dimension)を用いる。
(倫理面への配慮)

本研究は、佐賀大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会での承認を受けて実施し、研究の参加に関しては外来に研究内容を掲示し、参加を拒否できる機会を与える。

C．研究結果

問診を実施できなかったため、研究結果は得られていないが、今後、通常の外來担当の看護師以外に問診担当の人員を配置することで、問診の確実な実施を予定している。

D．考察

なし

E．結論

慢性痛および難治性疼痛の患者に対して学際的アプローチが必要であり、その介入効果を評価するためには治療開始時に痛みだけでなく心理・社会面も含めた多面的な評価を行うことが求められる。そのため、多面的な評価を継続的に実施できるだけの問診システムの構築が必要であり、人材の確保と環境の整備が求められる。今後は早急に問診システムを構築し、研究を進めていく必要がある。

F．健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載。

G．研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H．知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし